

深沢七郎対談集

生き難い世に生きる

生き難い世に生きる

定価 六〇〇円

昭和四十八年四月二十日 初版発行
昭和四十八年五月十日 2版発行

著者 深 沢 七 郎

発行者 増 田 義 彦

発行所 実業之日本社

本社 東京都中央区銀座一―三―九

TEL 〇三(五六二)四三一―

振替 東京三二六番 千一〇四

関西支局 大阪市北区真砂町五三

TEL 〇六(三六三)一七〇六

印刷 大日本印刷 製本 共文堂

乱丁、落丁の場合はお取り替えます

深沢七郎対談集*生き難い世に生きる

実業之日本社

装幀 村上美術



著者近影

自営の今川焼屋“夢屋”で

生き難い世に生きる／目次

北杜夫	生きたいように生きよう……………	11
羽仁五郎	日本の学生は世界から信用されている……………	25
赤塚不二夫	好きなことを好きにやろう……………	45
小中陽太郎	東大は火星人をつくる……………	63
岡本太郎	自分自身の着物を着よう……………	79
若松孝二	信ずることに没頭する心情……………	99
横尾忠則	外国に行くと日本人に逢いたくない……………	115
黒田征太郎	僕は自分のためにだけ生きる……………	131
平岡正明	沖繩は独立した方がいい……………	145

小沢遼子	青年よ大志を抱くな！……………	159
加藤諦三	君は働き中毒だ！……………	175
三上寛	フォークは人の真実を歌う……………	189
つげ義春	生きる実感は放浪にある……………	211
井上光晴	公害にかかってない人たち……………	227
金子光晴	ストリップの話、屁の話、そして詩の話……………	235
井上ひさし	楽しかりし孤児院……………	251
五木寛之	人の情愛のあり方について……………	265

装　　幀　村　上　美　術
 口　絵　写　真　林　　孝
 本　文　写　真　小　林　　攻

この対談はすべて実業之日本社発行の『週刊小説』四十七年六月二十三日号より同年十月十三日号までに掲載のため速記原稿を再編集したものです。

深沢七郎対談集

生き難い世に生きる

生きたいように生きよう



北 杜夫（作家）

昭和二年、東京生まれ。本名・斎藤宗吉。父はアララギ派歌人で精神病学者の斎藤茂吉、兄・茂太も精神病学者という医者の子を引く、本人も医者になった。そのかわら小説を書き、『マインボウ』もので若者にうけた。昭和三十五年『夜と霧の隅で』で芥川賞受賞。その他の著書に『楡家の人々』『酔いどれ船』などがある。現在創作活動に専念している。

北 深沢さんは神や仏を信ずるほうですか。

深沢 私は前はとてども信じたですね。ところが、四十代くらいからちよつと信じなくなつちやつて、いまは無宗教ですね。私の家は日蓮宗なんです。私の母のほうのおじいさんが一代でもつて日蓮宗になりまして、いまの創価学会とか盟友会とかとは違つて身延山の宗教だったんです。それで私も盲目的に、親が信ずるからといつて信じましたね。

これは恥ずかしいようなことであまりいたくないんですよ。けど、身延山の裏に七面山という山があるんですよ。そこへ私のおやじとおふくろが初めて行つて、私がその年生まれたから、そこへ泊まつてこしらえたんだか何だか知らないけれども、七郎という名前をつけられたんです。四番目ですけどね。

それでおふくろの里のほうの狂信者のようなおじいさんに、七郎はそのときに生まれたんだから、お坊さんにしたらどうかっていわれてたんです。おやじもそういう気持ちでいたらしい。おふくろが、ちよつとお坊さんにするのいやで、しなかつたらしいんですが、私は、お坊さんになれ、お坊さんになれということを、ちつちやい

ときからいわれまして、おふくろが賛成したら、なつていたかもしれません。

それでだんだん悪たれ口をきくようになりまして、オヤジがおこるときは七郎は漫才師になれ、といひました。(笑)それがおやじが私をおこる代名詞みたいなものですね。

北 お坊さんも、漫才師も案外似合うかもしれませんね。

深沢 それで神や仏ということですが、日本の神さまは信じなかったですね。何となくキリスト教の本読みましてから、キリストしか神はないんだと思つて、日本流の八百万の神というのは全然信じなかったわけです。キリスト教の神というものは、天地をつくつた神、エホバの神、そういうのは何となくウソだと思つたけど信じましたね。

北 私の父の父なんというと、やっぱり東北のあれは何宗だか知らなかったけど、念仏百万行を唱えたりして相当の信者だったらしいんです。父もやっぱりそれを受け継いでいまして、素朴に何かある程度の宗教心があつたようなんですけれども、私の代になると全くなくなりま

して、若いところから神仏全然信じないほうで来たんですけど、だんだん年とってくると、何だか変な気持ちになりました。ばかげた話ですけど、飛行機なんかエアポケットにおちいったときは、とっさに神でも仏でも何でも信じちゃう、助けを願うことにしているんです。あとまた忘れちゃいますけどね。

深沢 念仏だったらそういう気持ちになるかもしれないけど、私は人がこういうからそれでいいんだということがいやですね。たとえば仏教だと、とても仏教というものはむずかしいものだけれども、ある偉い人があってこういうことを研究したから、あなたたちはこれだけをいえばいいんですというでしょう。たとえば「南無阿弥陀仏」とか「南無妙法蓮華経」とか唱えれば救われる、あれがばくはいやなんです。

小っちゃいときから、お経なんかずいぶんあげたんですよ。それでお経ってどんなことが書いてあるのかと思って、内容をのぞいたことがあるけれども、何かドラマみたいなものだし、ずいぶんうそ八百があるような気がしましたね。

北 ばくも宗教というものは、自分のが一番正しくて、

他のはダメだというようなのが、何の宗教にもあるような気がして、それは大きらいですね。

深沢 神や仏が病気をなおすとか、幸福にするなんていうことを、いつから言い出したのかしら。病気がなおるなんていうことは、お釈迦さまいってないですけど、そういうのがちょっとお経の中にも入っていますね。日蓮宗なんか。それで何となく疑っちゃって、いまは無宗教ですね。

北 ある新興宗教の信者がバス事故か何かでけがしたんです。せっかく信心していたのにけがしたって文句をいったら、ほんと死ねところだったのに信仰していたからけがだけで済んだとかいわれたそうで……。

深沢 たとえば、けがしても信仰が薄いからこういうことになったといいますね。という、その宗教に入ってから薄かったんで、入らなければ薄いも何もなかったわけですよ。

北 私は父の骨を持っているんです。私、子供のとき、父はものすごいガンコおやじでカミナリオやじでしたから、おっかなくてたまらなかつたんですけれども、旧制高校に入った年に父の歌を読みまして、何かいものも恥

ずかしいけど、はっきりいうと、多くの文学というものの開眼というのはどうも父の歌などで、ファンになっちゃったわけです。他人だったら弟子入りたいと思ったくらいです。

父が死にましてあとで変な気持ちにとらわれて、骨つばに入ったのを深夜に行つてひそかに何本か盗み出したんです。まだ大学生で仙台の大学にいましたけど、そこに帰っていつも身近に持っていたわけです。

深沢 そのお骨は一たん墓地か何かに……。

北 まだ入らない前に、家で安置されている間に盗み出したわけです。

ただ、それを大切に、きれいに保管していたわけじゃなくて、鼻紙にくるんでサントリー・オールドの空箱に入れてあったわけです。

それで、二年くらい前に、私、非常に体が悪いが悪くなった、ウツ病になったりしたので、ヒョッと気がついて、父の骨をウイスキーの箱なんかに入ればなしにしたせいじゃないかと思ひまして、急に思い立って、浅草に仏壇を買いに行つたわけなんです。

ある大きな店に入つたら、これがある宗教の特別契約

店で、その宗教団体の人ですかといわれて、違うといつたら、それではお売りできませんというので、カンカンになったわけです。

ところが大体金ピカのような仏壇が多いので、白木のような何気ないのが父にふさわしいと思つて、そのときはばく不案内なんで、ある編集者の人に連れていつてもらったんですけれども、ズラッと仏壇屋が並んでいる中に、白木のようなのをおいている店が見えたんです。それでそこに行こうとしたら、あれはミコシ屋だといわれましてね。(笑)

深沢 きれいでしょうね。でもミコシでもいいんじゃないですか、魂を入れるんですからね。

ところで、北さんはウツ(鬱)病だと聞きましたけど、私はちよつとせいたくな病気みたいな感じがするけど、そんなことないでしょうかね。

北 いや、自分がなつてみると、他人にはわからないけど、案外つらいんですよ。

深沢 やっぱり幻想的なものじゃないですか。私は北さんがそういう病気だと聞いたときに、ずいぶんぜいたくな、上品な病気するもんだな、お医者さんはそんなふう

な病氣するんだなと思って、何か求めてなった病氣みたいな氣がするけど、そういう病氣はあるんですか。

北 やっぱりものを書くなんて不健康なことですから、その影響はすいぶんあるかもしれませんけど。

深沢 あんまりないでしょう。あるんですか、そういう病氣が。

北 やっぱりウツ病というのはかなりあるんです。これいのはやっぱり自殺しちゃうんですね。私は医学知識で、ある期間がくれば自然になおるものという観念にしがみついて、ひどいときはじっと床にもぐって、まだ自殺したいという気持ちは一べんも起こしたことはないですけど、これはそういうことを知っている医者でもウツ病になると往々自殺したりするんです。

深沢 そういうときに食欲はどうですか。

北 それが変でしてね。私はソウウツ（躁鬱）病で、ソウ（躁）病のときとウツ（鬱）病のときがあったのですが、いまはほとんどソウ病にならなくなっちゃったんですけど、ソウ病のときは逆にあまり食べたくなくなっちゃうんです。ウツ病のときはごろごろしていますと、夜中だけ腹が減ってきて、インスタント・ラーメンやおにぎ

りをつくったりして、夜の一時二時にむさばり食うわけです。それですます中年太りになっちゃう。

深沢 大体食べれば病氣はなくなっちゃうんじゃないですか。私はかぜなんかひいたりするとガンガン食べますね。そうするとなおっちゃいます。

北 それはやっぱり達人なんで、もつと俗物はだめですよ。（笑）

深沢 そういう意味でなくて、かぜなんかひきますとガンガン食いますし、胃が悪いと毒を食らわば皿までというようなくあいにして、少しよけいに好きなものを食います。そうすると何となく病氣だということを忘れちゃうわけです。

北 それはやっぱり精神力だと思えますけどね。

私の母が、案外、日本女性としては力強い女性なんで、かぜなんかひいたり熱出したりしていても、外国旅行に無理して行っちゃうわけです。そうすると、かぜもケロリとなおったり、日本にいるときが七十何歳ですからへばっているのが、けっこう外国に行くと元気になって、もつと元気になって帰ってきたりしますね。ただ、そういうところばくはあまり受け継いでないんで、